

# 日本家族社会学会ニュースレター

Japan Society of Family Sociology Newsletter

No. 56

2016年5月16日発行

編集 中里英樹・大瀧友織(庶務委員・広報担当)

発行 日本家族社会学会事務局

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

上智大学総合人間科学部 田淵六郎研究室

TEL : 03-3238-3783

## 会長挨拶

善積京子(日本家族社会学会会長/追手門学院大学)

この度の熊本地震により被災されました方々に心よりお見舞いを申し上げます。理事会での審議の結果、被災された会員の2016年度会費免除を決定いたしました。該当すると思われる会員は、申請してくださいようお願い致します。また、学会として、被災者・支援者向けの情報の発信を積極的に行っていきたいと考えております。

年末から1月中旬にかけて実施しました「第5回活動点検会員アンケート調査」にご協力いただき、有り難うございました。今後、この結果を生かしながら活動していきたいと思っています。前回よりも回収率は増えたものの、まだ低い値に留まっています。さらなる調査方法の工夫が必要です。また、奨励論文賞への募集に応じて下さいました会員の方々、有り難うございます。今年の9月10日の大会総会での発表・授与式を目指し、現在、選考作業を進めております。

今年の大会は、早稲田大学で開催します。大会シンポジウムのテーマは「専門家による家族への介入の現在」です。医学(家族療法)・法学・福祉学における専門知による家族介入の具体的な実践を明らかにするとともに、専門家によって「家族」が人工的に維持・構築されることの社会的意味を論じ、さらに家族社会学的な営みと他分野の専門家による家族臨床・支援現場との間の有意味な連携の可能性について議論を行う予定です。そのほかに、テーマセッション・国際セッション・自由報告などの企画があります。会員の皆さまの多数の発表や参加を期待しております。

今期の理事会の任期は、この秋の学会大会までです。それまでに、第9期の理事選挙および新会長候補の選出があります。第8期の理事会としては、「3年間の取り組みと課題」の報告書の作成を通じて、今期の活動の総括をしっかりと行ない、次期理事会に引き継いでいきたいと思っています。理事選挙に自分自身に関わることで、選ばれた理事による学会運営に関心を持つ第一歩になりますので、会員の皆さまには、理事選挙への投票を心よりお願い申し上げます。

===== 目 次 =====

会長挨拶	1	事務局だより	8
日本家族社会学会第26回大会のご案内	2	会員アンケート結果	8
第9期理事選挙のご案内	2	第7回日本家族社会学会賞(奨励論文賞)について	11
理事会報告(議事録抄)	3	訃報	12
各種委員会報告	6	会員異動	12

# 日本家族社会学会第26回大会のご案内

嶋崎尚子(第26回大会実行委員長／早稲田大学)

第26回大会は、本年9月に早稲田大学で開催いたします。大隈講堂や大隈銅像のある本部キャンパスではなく、そこから5分ほどの戸山キャンパスとなります。文学部と文化構想学部の学生たちが学んでいるキャンパスです。長年の工事を経て、ようやく一昨年度から新たに使い始めたところですが、残念ながら、東京オリンピックにむけて記念会堂・体育館の全面改修が始まっております。今夏大会時も工事中となりますことを、予めお詫びさせていただきます。ご迷惑のかからないように、可能なかぎり調整いたします。

近年、東京都心の暑さは大変厳しくなっております。皆さまの議論・交流の場として、少しでも快適になるよう努めて参ります。また、この時期には、都内宿泊施設は混雑が予想されます。ご参加の皆さまには、速やかにご手配いただくことをお奨めいたします。

大会実行委員会を委員長：嶋崎尚子、委員：池岡義孝会員、大久保孝治会員、木村好美会員、小島宏会員、畑山直子会員、本多真隆会員のメンバーで構成し、活発な学術交流の場になるよう準備を進めております。皆さまのお越しを心よりお待ちしております。



1. 日程：9月10日(土)、11日(日)

2. 会場：早稲田大学戸山キャンパス 〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1

東京メトロ東西線早稲田駅下車徒歩3分

JR高田馬場駅より学バス「馬場下町」下車徒歩3分

\* 交通路の詳細および大学周辺地図は、大会ウェブサイト、大会ニュースNo.2にてお知らせいたします。

3. 参加費等：

大会参加費、懇親会費は以下のとおりです。

	大会参加費			懇親会費		
	事前納付		当日払い	事前納付		当日払い
	郵便振替	クレジットカード		郵便振替	クレジットカード	
一般	3,500	3,500	4,500	3,500	3,500	4,500
学生・減額会員	2,500	2,500	3,000	2,500	2,500	3,000

#### 4. 昼食:

両日とも、昼食はキャンパス内の戸山カフェテリアをご利用いただけます。500円程度のランチメニューを用意しております。

#### 5. 宿泊:

宿泊につきましては、各自でお願いいたします。この時期、都内の宿泊施設は混雑が予想されます。予約は早めにご手配ください。

#### 6. 託児サービス:

大会中、NPO法人保育サービス「つくんぼ」による託児サービスを学内に用意いたします。利用料は1人1日2,000円、半日1,000円の予定です。詳細につきましては、大会ウェブサイト、大会ニュースNo.2にてお知らせいたします。

#### 7. 大会に関するお問い合わせ:

〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1 早稲田大学文学部 嶋崎尚子研究室 日本家族社会学会第26回大会実行委員会 E-mail: jsfs-taikai@bunken.co.jp

ただし、ウェブでの大会申込み、参加登録、事前納付等についてのお問い合わせは、以下の日本家族社会学会大会ヘルプデスクにお願いいたします。

E-mail: jsfs-desk@bunken.co.jp Fax: 03-3368-2827

## 第9期理事選挙のご案内

本年度は、3年に1度の理事選挙の年です。選挙はこれまでと同様、会員による郵送投票にて行います。

本学会では、「日本家族社会学会理事選挙規定」により、2016年4月1日現在で、2015年度までの会費を完納している方に選挙権があります。2016年度から入会された方には、今回の選挙に関する選挙権はありません。すでに会員の皆様宛に「日本家族社会学会第9期理事選挙 選挙権・被選挙権者名簿」が送付されていますので、ご確認ください。

被選挙権については、通算3期理事を務めた者及び顧問には被選挙権がないほか、学会理事会が定めた特定の理事も被選挙権がありません。後者は、学会理事会の継続性を考えた措置です。

選挙区は、「第1区」(北海道・東北・関東・甲信越:定員8名)と「第2区」(近畿・東海・北陸・中国・四国・九州(含む沖縄):定員7名)に分かれています。選挙区は有権者の4月30日時点での所属機関(所属機関のない者は、居住地)で定められます。所属する選挙区においてのみ投票ができます。

投票は3名連記の無記名投票で行われ、得票数の多かった会員が第9期理事となります。理事選挙後、会長選挙が行われます。新会長候補者は新理事の投票によって選出されますが、理事の互選ではないため、理事以外の会員が選出されることもあります。会長候補者は総会での承認をもって新会長に就任し、総会后に第9期理事会が発足します。

投票用紙等は5月27日頃の発送予定で、投票の締め切りは6月13日(必着)となります。会員の皆様におかれましては、理事選挙に必ずご投票くださいますようお願いいたします。

田渕六郎(事務局長・上智大学)

## 理事会報告

### 第8期理事会2015年度第3回理事会(第8期第13回会合)議事録(抄)(略)

## 各種委員会報告

### 編集委員会

編集委員会では3年任期の最終年で、第28巻第1号を4月末日に刊行し、現在は第28巻第2号の編集作業に取り組んでいます。このニュースレターとともに会員のみなさまにお届けしました第1号には、投稿論文で掲載されたものは残念ながらありませんでしたが、巻頭エッセイ、特集(今年の追手門学院大学大会のシンポジウム)、英語による特別寄稿(一昨年の東京女子大学大会での国際セッションをまとめたもの)、書評・文献紹介が掲載されており、内容としては多彩なものになっています。また、現在編集中の第2号は今期編集の最後の号になりますから、特集や研究動向、NFRJコーナーなど多くの企画を進行させていますので、ご期待ください。

今期の編集委員会では、理事会全体の方針にもとづき、懸案であった英語による投稿論文を受け付ける体制を整えました。英語による執筆要項(Style Guidelines for Manuscripts)を学会ホームページ上にアップし、専門委員にも英語論文を審査できる方々を配置したのですが、残念ながら今期の任期中には英語論文の投稿はありませんでした。しかし、学会の活動は、各期の活動の継承と連携の上に成り立っているものです。英語投稿論文についても前々からの大きな課題として前期編集委員会から引き継いだものを、今期にその制度を整備したものです。実際に英語論文が投稿され、それを審査して掲載に至るという次のステップは、次期編集委員会にバトンタッチします。さて、その一方で、今期編集委員会は、投稿論文の減少という深刻な問題に直面しました。投稿論文が一ケタの号が数号続いて、編集委員会としてもその原因を検討していくつかの対策を講じましたが、これも次期編集委員会に引き継ぎますので、英語論文を含めてどうか積極的な投稿をお願いします。

ニュースレターによる今期編集委員会のメッセージとしてはこれが最後になりますから、この場をお借りして、この3年間査読審査で大変お世話になりました専門委員の先生方、依頼原稿を快く執筆してくださった先生方、そして投稿論文をお寄せいただいた会員のみなさまに、編集委員会を代表して心よりの感謝を申し述べます。ありがとうございました。

(早稲田大学・池岡義孝)

### 研究活動委員会

#### 1. 第26回日本家族社会学会大会(2016年9月10日・11日)について

研究活動委員会は、早稲田大学戸山キャンパスで開催される大会に向けて準備を進めています。3月7日には、第26回大会オフィシャルサイト(<http://www.wdc-jp.com/jsfs/conf/2016/index.html>)を開設しました。このサイトへは学会ウェブサイトの「学会大会／研究活動」から入ることができます。また、4月初旬には会員の皆様に第26回日本家族社会学会大会ニュースNo.1をお届けしました。

一昨年度から開始した「報告者公募型テーマセッション」の企画申請は3月末に締め切り、久保田裕之氏(日本大学)が企画した「きょうだいの家族社会学」と施利平氏(明治大学)・山根真理氏(愛知教育大学)が企画した「学会のグローバル化と非英語圏からの発信—アジア地域からの留学生の視点を通して—」が採択されました。

企画全体提案型テーマセッション・国際セッション・ラウンドテーブル・書評ラウンジなどの企画申請は4月末に締め切りしました。自由報告と「報告者公募型テーマセッション」での報告の申し込みの締め切りは5月31日(火)です。いずれも要旨原稿は5月31日(火)が締め切りです。

報告申し込みは上記の大会オフィシャルサイト上で行ってください。その際にはマイページと同じID(会員番号)とパスワードが必要ですのでご注意ください。多くの皆様からの申し込みをお待ちしています。

大会シンポジウムのテーマは「専門家による家族介入の現在—家族を外側から支える実践—」です。研究活動委員の野沢慎司氏(明治学院大学)と和泉広恵氏(日本女子大学)が企画を練っています。報告者は中村伸一氏(中村心理療法研究室、精神科医・家族療法家)、原田綾子氏(名古屋大学大学院法学研究科)、中根成寿氏(京都府立大学公共政策学部)であり、討論者は天田城介氏(中央大学)と松木洋人氏(大阪市立大学)です。活発な討論が展開されると期待されます。ふるってご参加ください。

大会では、別刷交換コーナー、書籍販売コーナー、大会報告レジュメコーナーを設けます。

大会参加申込は7月5日(火)からウェブ上で行うことができます。

## 2. 大会プログラムと要旨集のレイアウト

昨年度より、報告要旨はA4サイズで1ページに変更しました。要旨集のレイアウトを揃えるために、大会ウェブサイトに掲載している「報告要旨作成要領」を順守して作成してください。昨年度と同様に、大会プログラムのうち報告スケジュールについて、英語版を作成します。そのために、報告申し込みの際に、氏名、所属、報告タイトルについて、英語でも入力していただきます。

大会要旨集は、第5回会員アンケートにおいて「紙媒体は必要ない」が57%を占めたことを受けて、将来的に電子媒体(大会ウェブサイトで公開)のみにする方向性を探り始めます。しばらくは紙媒体の要旨集を併用します。電子媒体の要旨集を活用していただくために、電子媒体の要旨集は8月30日(火)に公開する予定です。当日までに報告の取り下げがあった場合は、電子媒体のプログラムと要旨集から削除させていただきます。

(岩井紀子・大阪商業大学)

## 庶務委員会

### 1. 会勢と会員の異動について

2016年3月17日時点の会員数は729名(一般会員583、学生会員99、減額会員44、賛助会員1)でした。昨年の同時期に比べ数名の微減となります。

### 2. 新刊書情報の配信ミスについて

2月のメールマガジンにてご報告いたしました。新刊書登録システムの不備により、2015年4月以降の数ヶ月間、会員の皆さまの新刊書情報が配信できておりませんでした。あらためて全ての会員の皆さまに心よりお詫びを申し上げます。今後、同様の問題が生じないよう措置を講じましたが、今後一層気を引き締めて取り組んで参ります。

(田淵六郎・上智大学)

## 全国家族調査(NFRJ)委員会

### 1. NFRJ18に向けて

2018年度に実施予定のNFRJ18の実行委員会を今後立ち上げます。学会員はどなたでも実行委員会に入ることができます。学会理事やNFRJ委員の中で引き受けてくれた会員が実行委員長となり、実行委員を広く募集していきます。学会ウェブサイトのお知らせ欄、NFRJウェブサイト、学会メルマガでお知らせいたします。また、実行委員会が立ち上がるまでは、NFRJ委員会事務局(office☆nfrj.org(☆を@に変換))が対応いたしておりますので、ご関心のある方は是非ご連絡ください。

### 2. 研究会活動

昨年度は家族社会学パネル研究会、NFRJ18準備研究会を開催してきました。今後も研究会活動を行ってまいりますので、ご関心のある方はNFRJのウェブサイトをご覧の上、是非ご参加ください(<http://nfrj.org/>)。これまでの研究活動の成果として、東京大学出版会から『日本の家族1999-2009』が刊行されます。引き続き他の書籍も刊行予定です。

### 3. 公開データ

SSJDAよりNFRJ-08Panel以外のデータはすべて利用可能です。NFRJ08に関しましてはICPSRに寄託済みですので、加盟大学の会員の方はそちらからも利用することができます。NFRJ-08Panelは現在、学会会員のみの利用となっておりますが、SSJDAに寄託の準備を進めております。それまでの間、ご利用の際は事務局(office☆nfrj.org)までご連絡ください。NFRJデータは学部生の利用も可能です。事務局までお問い合わせください。

各種研究会への参加、NFRJ18実行委員会への参加、データの利用などについて、ご不明な点、ご意見をoffice☆nfrj.org(☆を@に変換)までお送りください。

(永井暁子・日本女子大学)



## 事務局だより

早いもので、第8期理事会が発足して2年半強が経過し、間もなく第9期の理事選挙を迎えようとしています。会員の皆さまにおかれましては理事選挙への投票をどうぞよろしくお願いいたします。

第8期の最終年度にあたり、会員アンケートを実施させていただきました。ご協力をいただきました会員の皆さまには心より御礼申し上げます。残された任期が短くなって参りましたが、学会活動についてのご意見、ご要望などがございましたら引き続き事務局までご連絡ください。

(田淵六郎・上智大学)

## 会員アンケート結果

斧出節子（庶務委員・京都華頂大学）

会員皆様のご協力により、「日本家族社会学会第5回活動点検会員アンケート」が終了いたしました。会員総数725名、有効回収数86、回収率11.9%でした。前回調査より回収率は少し上がりましたが、なお低い回収率となっています。幅広い年齢層の会員のみなさまのご意見を反映することができるような、アンケート調査の実施方法や内容について検討することが今後の課題です。

詳しい調査結果は3月の理事会で報告され、各委員会において今後の活動を検討するうえで貴重なデータとして活用いたしております。以下に、調査の単純集計結果と各委員会からのコメントを掲載いたします。アンケート結果の解釈については、回収数が少なかったことには十分配慮しておりますが、今回の調査について、ご意見やご質問がありましたら、気軽に事務局までお寄せください。

### 第5回活動点検会員アンケート調査(単純集計結果)

◆調査時期2015年12月25日～2016年1月25日

◆調査方法 マイページを経由したWeb調査

◆有効回収数 86(有効回収率11.9%, 会員数725名)

①パーセンテージのみを表示しています(注記のない限り, N=86)。

②複数回答の設問は、選択された回答のパーセンテージを表示。

③自由記述の回答は掲載しませんが、各委員会でご意見を参照させていただき、一部コメントに反省させています。

◆【回答者の属性】

問1 [年齢] 29歳以下10.5%, 30～34歳9.3%, 35～39歳8.1%, 40～44歳11.6%, 45～49歳18.6%, 50～54歳12.8%, 55～59歳12.8%, 60～64歳9.3%, 65～69歳5.8%, 70歳以上1.2%

問2 [会員区分] 一般会員81.4%, 学生会員18.6%

問3 [会員歴] 入会后3年未満20.9%, 入会后3～5年未満8.1%, 入会后5～10年未満15.1%, 入会后10～21年未満34.9%, 家族社会学セミナー以来の会員(24年以上)20.9%

問4 [役員歴(複数回答)] 会長・顧問, 理事, 会計監事18.6%, 複数年にわたる(専門)委員26.7%, 単年度の委員16.3%, 役員の経験はない62.8%

◆【学会活動】

問5 [大会参加頻度] ほぼ毎年参加している53.5%, 2・3年に1度位参加している22.1%, 以前はよく参加したが、近年は参加していない14.0%, あまり参加していない3.5%, 参加していない7.0%

問6 [自由報告・テーマセッションの企画改善・工夫] 特になし94.2%, ある5.8%

問7 [国際セッション企画の改善・工夫] 特になし90.7%, ある9.3%

問8 [報告者公募型英語セッション企画の改善・工夫] 特になし91.9%, ある8.1%

問9 [2015年大会時のシンポジウム・テーマセッションの改善・工夫] 特になし84.9%, ある15.1%

問10 [2015年大会時のプログラムの編成] 特になし94.2%, ある5.8%

問11 [紙媒体報告要旨集] 紙媒体の要旨集は必要ない57.0%, 紙媒体の要旨集は今後も必要43.0%

問12 [国際学会の参加] ほぼ毎年参加12.8%, 2・3年に1度位参加29.1%, 以前はよく参加・近

年参加していない8.1%，あまり参加していない29.1%，参加していない20.9%

問13 [国際学会への参加希望] これまでも行っており、今後も取り組みたい47.7%，これまで行ってないが、今後は取り組みたい38.4%，国際学会または海外での学会での報告には関心がない14.0%

問14 [国際学会で役立つこと] 国際学会または海外の開催について情報をメルマガで広報46.5%，家族社会学会の大大会で、国際セッション（海外からの報告者中心）10.5%，家族社会学会の大大会で、報告者公募型の英語セッションを常設する8.1%，とくにない・わからない34.9%

#### ⇒研究活動委員会よりコメント

「紙媒体の要旨集は必要ない」という意見が6割近いことを踏まえて、大会ウェブサイトへのPDF版掲載の時期を早めて、PDF版を活用していただこうと思います。当分は紙媒体も併用します。学部生の参加や他の学術団体との交流を促すという要望を受けて、第26回大会のシンポジウムは、「事前登録」の上、無料で公開する方向を探っています。セッションの配置は、報告テーマの共通性、同系統のセッションの同時並行を避ける、同一機関の報告者を固めない、海外報告者の来日予定などに留意しています。シンポジウムのテーマのご提案は、次期委員会に引き継ぎます。国際学会に取り組みたいという要望の多いことを受けて、国際学会の開催や報告募集をメルマガで広報し、国際セッションと報告者公募型英語セッションについてのご提案を参考にします（岩井紀子）。

#### ◆【機関紙『家族社会学研究』について】

問15 [読む程度] よく読む24.4%，関心のある部分だけ読む70.9%，あまり読まない4.7%

問16 [発行回数] 1回で十分5.8%，現行のままで良い87.2%，少ない7.0%

問17 [学会ウェブサイトの「査読ガイドライン」の認知] ウェブサイトで閲覧し、役に立った50.0%，掲載されたことは知っているが読んでいない34.9%，知らなかった15.1%

問18 [投稿論文の査読制度についてのご意見・ご要望] 特になし89.5%，ある10.5%

問19 [英語による投稿論文受け付けの認知] 投稿規程など内容を含めてよく知っている22.1%，知っているが投稿規程など内容まで詳しくは知らない62.8%，まったく知らない15.1%

問20 [英語論文投稿希望] ぜひ投稿したい5.8%，できれば投稿したい40.7%，あまり投稿したくない15.1%，まったく投稿したくない38.4%

問21 [英語投稿論文についてのご意見・ご要望] 特になし89.5%，ある10.5%

問22 [取り上げてほしいテーマ] 省略

問23 [電子ジャーナルの利用頻度] よく利用する20.9%，ときどき利用する44.2%，ほとんど利用しない15.1%，利用したことがない19.8%

問24 [電子ジャーナルについてのご意見・ご要望] 特になし93.0%，ある7.0%

問25 [機関紙の編集方針についてのご意見・ご要望] 特になし96.5%，ある3.5%

#### ⇒編集委員会よりコメント

査読ガイドライン公開の認知度や電子ジャーナルの利用頻度が前回より高まったことは、これらの定着を表すもので歓迎できる結果でした。今期の編集委員会が最大の課題として取り組んだ英語投稿論文の受付についても、その認知度は比較的高かったのですが、投稿希望については否定的な回答が半数を上回りました。実際にも今期の任期中には英語論文の投稿はありませんでした。自由記述からは「英語論文は海外のジャーナルに投稿する。本誌に英語論文が掲載されても日本人に読まれない。読まれないものは投稿しない。」といった理由が浮かび上がってきます。しかし、投稿希望が半数近くあることも事実です。英語投稿論文を受理する制度は作りましたから、この制度が活用されて実績が蓄積されるよう、次期編集委員会に引き継ぎます。（池岡義孝）

#### ◆【全国家族調査（NFRJ）について】

問26 a [第1回全国家族調査（NFRJ98）の認知度] 内容について知っている64.0%，名前だけ知っている29.1%，わからない7.0%

問26 b [全国調査「戦後日本の家族のあゆみ」NFRJ-S01の認知度] 内容について知っている45.3%，名前だけ知っている34.9%，わからない19.8%

- 問 26c [第2回全国家族調査 (NFRJ03) の認知度] 内容について知っている 60.5%, 名前だけ知っている 31.4%, わからない 8.1%
- 問 26d [第3回全国家族調査 (NFRJ08) の認知度] 内容について知っている 57.0%, 名前だけ知っている 37.2%, わからない 5.8%
- 問 26e [NFRJ08 パネル調査の認知度] 内容について知っている 45.3%, 名前だけ知っている 46.5%, わからない 8.1%
- 問 27a [NFRJ データの質] 非常によい 20.9%, よい 59.3%, わからない 19.8%
- 問 27b [東京大学 SSJ データアーカイブを通じたデータ公開] 非常によい 60.5%, よい 27.9%, よくない 1.2%, 非常によくない 1.2%, わからない 9.3%
- 問 27c [実査終了から一般公開までの迅速さ (現在約 2~3 年)] 非常によい 18.6%, よい 64.0%, よくない 8.1%, 非常によくない 1.2%, わからない 8.1%
- 問 27d [ウェブサイトを通じての情報公開] 非常によい 30.2%, よい 61.6%, よくない 1.2%, わからない 7.0%
- 問 27e [調査項目の学会内での公募] 非常によい 31.4%, よい 50.0%, よくない 1.2%, 非常によくない 1.2%, わからない 16.3%
- 問 27f [NFRJ 実行委員の人選] 非常によい 14.0%, よい 41.9%, よくない 1.2%, わからない 43.0%
- 問 27g [学会員からの意見や要望の聴取] 非常によい 12.8%, よい 47.7%, よくない 4.7%, わからない 34.9%
- 問 27h [『家族社会学研究』での NFRJ レポート] 非常によい 16.3%, よい 66.3%, よくない 2.3%, わからない 15.1%
- 問 27i [家族社会学研究への貢献 (研究活動や学会大会でのテーマセッション)] 非常によい 33.7%, よい 54.7%, よくない 1.2%, わからない 10.5%
- 問 27j [NFRJ の成果の刊行 (『現代家族の構造と変容』『現代日本人の家族』など)] 非常によい 39.5%, よい 51.2%, よくない 1.2%, わからない 8.1%
- 問 27k [これまでの NFRJ 委員会の取り組み全般] 非常によい 31.4%, よい 50.0%, わからない 18.6%
- 問 28 [学会が主となって公共利用データを作成していくこと] 今後とも必要 90.7%, 今後は必要ない 2.3%, どちらともいえない 2.3%, わからない 4.7%
- 問 29 [全国家族調査および全国家族調査委員会についてのご意見・ご要望] 特になし 93.0%, ある 7.0%

#### ⇒全国家族調査 (NFRJ) 委員会よりコメント

アンケートの結果から、学会員の方から全国家族調査 (NFRJ) や委員会の活動はよい評価を得ているようで安心しました。ただし、いくつかの点で会員向けにより丁寧に活動についてご説明していかねばならないと思います。要望のあったチュートリアルの実施や (現在でも会員の指導の下で学部生が利用することは可能) SSJDA からの学部生の利用についても検討しております。

(永井暁子)

#### ◆【学会賞について】

- 問 30 [「日本家族社会学学会賞 (著書の部) についてのご意見・ご要望」特になし 95.3%, ある 4.7%

#### ⇒学会賞選考委員長よりコメント

今回の会員アンケートでは、学会賞に著書の部を新設することに関する意見を募りました。とくに意見なしという方が 95% を占めましたが、「ある」とした方のなかには、「若手対象」という年齢やキャリアの制約なしに幅広く授賞を考えてはどうかという意見が複数みられました。将来的には検討すべき課題として、次期理事会に引き継ぎたいと思います。(藤崎宏子)

#### ◆【学会ニュースレターについて】

- 問 31 [学会ニュースレターを読む程度] めったに読んだことがない 2.3%, ときどき読んでいる 41.9%, ほぼすべて読んでいる 55.8%
- 問 32 [学会ニュースレターの内容] 大変よい 26.7%, まあよい 72.1%, あまりよくない 1.2%



問 33 [学会ニュースレターについてのご要望] 特になし 94.2%, ある 5.8%

◆【学会ウェブサイトについて】

問 34 [学会ウェブサイトを見た経験] 見たことがない 7.0%, 見たことがある 93.0%

問 35 [ウェブサイトで情報を得られたことのある内容(複数回答)] 学会大会についての情報 95.3%, 『家族社会学研究』の投稿規定など 62.8%, 学会賞関連情報 18.6%, 過去のニュースレターの内容 26.7%, 全国家族調査についての情報 47.7%, 人事公募 23.3%, 助成金の案内 32.6%, 講演会・研究会の案内 45.3%, 社会学系コンソーシアム関連情報 26.7%

問 36 [学会ウェブサイトについてのご要望] 特になし 96.5%, ある 3.5%

◆【学会メールマガジンについて】

問 37 [メールマガジンを読む頻度] 登録していない 9.3%, 登録しているがめったに読んでいない 3.5%, とくどき読んでいる 32.6%, ほぼすべて読んでいる 54.7%

問 38 [メールマガジンで配信する内容の希望(複数回答)] 人事公募 53.5%, 講演会の案内 82.6%, 研究会の案内 88.4%, 助成金の案内 62.8%, 大会の案内 89.5%, その他 4.7%

問 39 [学会員の新たな交流の場(例えば、会員用のメーリングリスト)開設の必要] 特になし 89.5%, ある 10.5%

◆【会員の個人情報について】

問 40 [会員名簿についてのお考え] 紙媒体での名簿の発行のみを続ける(現状と同じ) 24.4%, 紙媒体の名簿に加えて、Web 上の会員ページからログインして検索 17.4%, 紙媒体の名簿は廃止して、Web 上の会員ページからログインして検索 50.0%, 名簿は全面的に廃止し、検索システムも作成しない 4.7%, その他 3.5%

問 41 [ニュースレターでの新入会員紹介欄の必要性] 必要 72.1%, 不要 27.9%

◆【学会入退会・会費などについて】

問 42 [入退会の方法についてのご意見・ご要望] 特になし 100.0%

問 43 [常勤職にない会員にむけての会費減免制度の認知] 知っている 77.9%, 知らない 22.1%  
[ご意見・ご要望] 省略

問 44 [会費金額や支払い方法、財務内容についてのご意見・ご要望] 特になし 96.5%, ある 3.5%

◆【役員選挙について】

問 45 [理事選挙の経験] 必ず投票している 27.9%, 投票することが多い 19.8%, 投票しないことが多い 23.3%, 一度も投票したことがない 29.1%

問 46 [理事に関する意見(複数回答)] 理事がどのような仕事をしているか、会員にはわかりにくい 41.9%, 理事にはもっと若い人がなるのがよい 18.6%, 理事にはなるべく年配の人がなるのがよい 2.3%, 同じ人が 10 年以上理事をするのは望ましくない 47.7%, 自分の選挙区だけでなく、他の選挙区の人にも投票できるほうがよい 27.9%, 会長は理事だけの投票によるのではなく、一般会員全員が投票するのがよい 9.3%, 理事選挙にはほとんど関心がない 16.3%

◆【学会全体】

問 47 [日本家族社会学会のあり方や活動についてのご意見・ご要望] 特になし 93.0%, ある 7.0%

⇒庶務委員会よりコメント

ニュースレター、学会ウェブサイトのどちらも多くの方に利用していただいていることが分かりました。今後も会員に有用な情報を、より有効な方法を用いて発信していきたいと思っております。ウェブサイトの英語化は多少の進展がありました。今後も改善を図る予定です。会員名簿のあり方については引き続き検討していく所存です。理事選挙の投票率の改善や、理事の仕事内容の周知は、本学会の設立から25年が経過し、以前よりも多様な会員がおられる状況も踏まえ、今後の課題として位置づけて参りたいと思っております。(田渕六郎)

## 第7回日本家族社会学会賞(奨励論文賞)について

藤崎宏子(学会賞選考委員長/お茶の水女子大学)

今年は、3年に一度の学会賞(奨励論文賞)選考の年です。選考対象は、学会誌『家族社会学研究』25(1)~27(2)の掲載論文、また同等の査読制度をもつ学会誌等掲載論文で自薦・他薦されたものの内、「修士

課程修了後概ね10年以内の者」などの内規に規定された要件を充たす論文です。今回は本学会誌掲載論文8本、自薦・他薦による論文6本、計14本が選考対象になっています。これから選考委員会で審議を重ね、9月の学会大会総会時に結果発表を行う予定です。

## 訃報

藤見純子先生が、今年の3月14日に逝去されました。藤見先生は、本学会の第1期の事務局員、第2期から第4期までの理事(事務局、庶務委員、NFRJ委員長)、NFRJ委員については初回から2010年まで務められ、さらに2008年に大正大学で開催された第18回学会大会では実行委員長の大役を担われ、創生期から長年にわたって学会の運営に貢献されてきました。心よりご冥福をお祈りいたします。(学会事務局)

## 会員異動(略)

個人情報保護の観点から、情報は所属のものを原則とし、ご本人が許可した場合のみ掲載しています。

## 編集後記

このニュースレターの編集期間に熊本地震が発生しました。被災された方々にお見舞い申し上げます。今期の理事会が発行する学会ニュースレターは本号で最終となりますが、引き続き、学会としてできる震災やその後の復興に関わる情報発信を、メルマガやウェブサイトを通じて行っていければと考えております。今期のニュースレターは、前の期の3年間で大きく変化した形やコンテンツを踏襲しつつ、国際社会学会 (ISA) の世界社会学会議横浜大会が開催されたこともあり、特別企画の記事をいくつか掲載することができました。目を引く写真レイアウト等も意識しました。会員の皆さまには、これまで本紙の編集・発行に様々な形でご協力いただき、心より感謝しております。ありがとうございました。

(中里英樹・甲南大学)